



2018・10・21

第 321 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

安倍首相 改憲論議に自衛隊巻き込み狙う

高級幹部会同に続き観閲式でも
安倍首相 14 日の自衛隊観閲式の訓示で、「自衛隊はかつては厳しい目で見られた時もあった。それでも歯をくいしばりひたすら職務を全うしてきた」「いまや国民の 9 割が敬意を持って自衛隊を認めている。すべての自衛隊員が強い誇りをもって任務を全うできる環境を整えるよう政治がその役割をしっかりと果たさなくてはならない。私はその責任をしっかりと果たしていく決意だ」と述べました。安倍首相は 9 月に開かれた自衛隊の高級幹部会同でも同様の発言をおこなっています。

安倍首相は去年の 5 月 3 日の改憲派集会へのメッセージいらい繰り返し改憲発言をしてきましたが、これまではともかく「自民党総裁」の立場としてのけじめをつけてきました。しかし、今回はいずれも「内閣総理大臣」としての訓示です。さらに、相手は自衛隊員であり、もっとも厳密に政治的中立を求められる公務員です。その政治的中立を監視する（シビリアン・コントロール）立場にある者が訓示で改憲を表明するなど、まさに常軌を逸しています。焦り

ともいえる安倍首相の言動からは、さらに暴走することへの危険を感じます。

<臨時国会で 4 案提示>

安倍首相は 10 月 3 日、首相官邸で高村正彦前副総裁と会談、高村氏が「臨時国会の（衆参両院）憲法審査会でたたき台 4 項目を説明する、ということでもいいか」とただしたのにたいし、首相は「そういうことだ」と答えました。

沖縄知事選勝利の意義を確認

【千葉県／医療者の会】 九条の会・千葉医療者の会、千葉県民主医療機関連合、千葉県保険医協会は 14 日、千葉市内で、稲嶺進前沖縄県名護市長を招き市民公開講座を開きました。「反核医師の会ちば」が後援しました。

稲嶺氏が「沖縄と憲法 9 条」と題して記念講演。冒頭に「私が敗れた名護市長選のような、自公政権が全面的に支援し、官邸丸抱えの『勝利の方程式』が知事選では通用しなかった」と述べ、改めて県外からの沖縄県知事選への支援に感謝を表明しました。

稲嶺氏は、戦後、沖縄は日本から切り離され27年間米軍の統治下におかれ、日本復帰後も「憲法番外地」（三権分立、民主主義、地方自治、基本的人権が適用されない）にされたと強調し、沖縄の米軍基地をめぐる現状を告発。「平和憲法のもとで沖縄は意図的に差別され、今の辺野古新基地問題がある」と述べました。

参加者から「知事選で辺野古基地反対の民意が示されたが県民投票の意義は」の質問に、稲嶺は「テーマを一つに絞って、改めて突きつけることで、逃げ道をつくらせないことに、県民投票の意義あるのだと思う」と応えました。

オープニングでは神山里映子さん、後藤可奈愛さんの両アルパ（南米のハーブ）奏者が「ジェガーダ」5曲演奏し、参加者を魅了しました。

21世紀を支えあいの時代に

【奈良県／橿原市9条の会】 橿原市9条の会は7日、浜矩子同志社大学大学院教授を招き、結成13周年記念講演会「ふだんの暮らしと平和…そして戦争」を市内で開き、200人が参加しました。

浜氏は、日本国憲法前文の「諸国民との協和による成果」「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼」などの一節を示し、憲法にはグローバル時代の生き方を示す先見性と先端性が集約されているとのべ、「21世紀を支えあいや分かちあいの時代にするために憲法を守らなければならない」と話しました。

安倍政権の経済政策「アベノミクス」を阻止するためには、「働き方改革」や「1億

総活躍社会」など相手が発信している用語をそのまま使うのではなく、「言葉の本質を常に考え正体を見極め、相手からめとられないように」とのべました。

参加した男性が「あるジャーナリストが『戦争があった』という時代、戦争が無いことが常識になる時代がいつくる、という話をしていたがどう思うか」と問うと、浜氏は「いつかより今の問題。『私たちが戦争を無くす』という心意気を持つことが必要です」と答えました。

文化行事を楽しみ9条を考える

【名古屋市昭和区／昭和区九条の会等】

7日、第12回昭和区平和のつどいが開かれ、名古屋城柳短期大学体育館には200人以上が集いました。昭和区九条の会など13団体でつくる実行委員会の主催。

昭和区九条の会代表世話人で医師の能登正嗣実行委員長は「安倍首相の改憲の動きが強まっている。文化行事を楽しみながら、戦争や平和、戦争や憲法9条について考える機会にしてほしい」と話しました。

文化行事では愛知県高校生フェスティバル実行委員会の高校生の訴えや演舞、京都府から駆けつけたブレイクの「たっちゃん」と高校生、子どもたちのダンス、「昭和区へいわのつどい西郷合唱団」のリードによる、沖縄戦犠牲者を追悼する「月桃の花」全員合唱などがおこなわれました。

小学校教員を長年務めた岡崎勝さんが「学校の今、子どもたちの今～競争社会から憲法が活（い）きる社会へ」と題して記念講演。STOP改憲ママアクション@あいちが憲法カフェなどの取り組みを報告し

しました。

つどいは「3000万人署名を広げ、平和憲法を守る」とのアピールを採択しました。会場の席から「月桃の花」を大きな声で歌っていた脇伸治さん（62）は「沖縄知事選に応援に行った時、歌詞にある摩文仁の丘の平和記念公園を訪れ、戦没者墓苑の前で『憲法9条は絶対に守る』と誓った。少し中だるみしていたが3000万人署名の目標達成をめざして頑張る」と話しました。

学びつつ行動の取り組み交流

【宮崎県／みやざき九条の会】 みやざき九条の会は13日、宮崎市で「9条改憲を止めよう！県内交流集会」を開きました。

藤原宏志代表世話人が「なぜ今、9条改憲なのか」と題し講演しました。藤原氏は、「破綻したアベノミクスを取りつくろうために最後に選んだのが改憲、軍需路線。安倍政権は追い込まれたねずみだ」と述べ、3000万人署名の成功を呼びかけました。

県内各地からの参加者が3000万人署名や憲法の学習などの活動を交流しました。「毎月の憲法カフェで勉強して改めて憲法の素晴らしさ、自民党改憲案の恐ろしさが分かった。それが行動につながっていく」「憲法を守ることは女性、医療などそれぞれが関わる日常的な運動を発展させることだと思う」などの発言がありました。

参加した工藤愛子さん（84）は「9条で平和を守ることは生活を守ること。学習会を根気よくやっていきたい」と話しました。

商店街を9条パレードで訴え

【愛媛県／愛媛9条の会】 愛媛9条の

会は8日、松山市の商店街で「9条パレード」をしました。約70人が参加。「アベ9条改憲ス！トップ！」をアピールし、手を振って激励されるなど注目を集めました。

代表幹事の東俊一弁護士は、「安倍政治は一刻も早く終わらせ憲法改悪は断固阻止しましょう」と呼びかけました。

久米9条の会の高下和子さんは「私は憲法が大好きです。第2次世界大戦という悲しい時代を経験して手に入れた、すばらしい憲法です。いまこそ思いを一つにして行動しましょう」と3000万人署名への協力を求めました。

参加者は、「ひとりの手」や「勝利を我らに」などを歌いながら、商店街をパレードしました。

返信用封筒で3000人署名運動

【全日本教職員組合】 9月に入って、全教本部には連日「料金受取人払」封筒入りの憲法3000万署名が届いています。返送がもっとも多いのは奈良県教組です。

奈良県教組では、1人分会や2人分会など、点在している組合員に憲法3000万署名を確実に届け、すべての組合員に参加してもらうため、一人ひとりに、メッセージと署名用紙、「料金受取人払」封筒をセットにして、夏休み前に郵送しました。名簿の整理、発送作業と、予想以上に煩雑な作業でしたが、書記局の大奮闘でやりきることができました。予想を超える返送の多さに手ごたえを感じ、署名をきっかけに、多忙に押しつぶされてしまいそうな職場の中で孤軍奮闘している組合員との対話をすすめ、今後の活動にいかしていきたいと考えています。

(全日本教職員組合機関紙「新聞全教」
10月15日号)

会員を講師に月例会を重ね

【東京都調布市／調布九条の会】 調布九条の会「憲法ひろば」の9月例会は9月15日(土)調布市国領町のおくろすホールで開かれ、約50人が参加しました。

同会の強みは、勉強会の講師を世話人の中から自前でまかなえること。この日は3人の講師が「明治150年、天皇代替りと日本国憲法」のテーマについてそれぞれの立場から熱弁を振るいました。

まずトップは『13歳からの教育勅語』(かもがわ出版)の著書がある岩本努さんが「明治とはどのような時代であったか」について教育の歴史からアプローチしました。

2番手の教科書問題に詳しい石山久男さんは「明治150年キャンペーンが意味するもの」がテーマ。

安倍政権が今年(1968年)から150年目にあたるとして、集団的自衛権行使や憲法改悪へ突き進むのは大日本国憲法の時代へ引き戻したいとの表れあり、われわれの依拠すべきは日本国憲法であり、大日本国憲法や教育勅語では断じてないと考えるべきだ」と強調しました。

最後に登場した新聞OB会、同九条の会会員でもある丸山重威さん(共同OB)は「日本国憲法から見た天皇代替わり」について講演。2016年の天皇のおことばで生前退位の意向が表明され、憲法では予定されていなかった今年限りの代替わりが決定。日本国憲法では象徴天皇制が誕生したが、今後の論点は明治憲法下の近代天皇制を復

活させないための歯止めの制度が必要、などと発言。

講演のあと、3講師と参加者で質疑をかわし、天皇制などをめぐって活発な意見が出されました。(「新聞OB『九条の会』」第109号記事の要約)

19日駅前宣伝に参加して感じたこと

東松山九条の会 馬橋 奨

毎月19日は「東松山市民アクション」行動の日として東松山駅前で「安倍改憲NO! 3000万署名」を訴えており「東松山九条の会」も参加しています。

この数か月に感じたことですが、駅前の行動に対して市民がかなり真剣に耳を傾けて署名なども積極的にしてくれる人たちが多くなったと感じます。

今までは「署名お願いたします」と声高に叫んでも見向きもしなかった市民が多かったのですがこの頃は向こうから進んで署名をしてくれる市民が増えてきたように感じます。

これは一般の市民たちが安倍改憲に対して直感的に危険性を感じているからなのではないでしょうか?

私たちは理屈抜きに「戦争できる国作り」の憲法改悪には心より反対しています。

駅前で署名をしてくださった方々をはじめとして多くの市民と連帯して「戦争できる国作り」の憲法改悪反対という素朴な訴えを広げてゆきましょう。

19日駅前市民アクションに参加して感じたことです。

(「東松山九条の会ニュース」No.63)